



KIN-BALL® sport

2018年度の主なルール改正について その2

●主な変更点

○ベンチ入りメンバー（通訳）の追加とプレーヤーの最大人数の変更

・2017、2018日本版ルールブック第3条

各チームは最小4人のプレーヤー、最大8人のプレーヤーとヘッドコーチ1名、アシスタントコーチ2名で構成される。コート内にはいつでも4人のプレーヤーがいなければならない。

↓

・改正 第3条

各チームは最小4人のプレーヤー、最大12人のプレーヤーとヘッドコーチ1名、アシスタントコーチ2名、通訳1名で構成される。コート内にはいつでも4人のプレーヤーがいなければならない。

※下記の条項が関連して追加となる。

第3条第4項 通訳の役割と責任

- 通訳はチームとともに行動し、スポーツマンシップはもとより試合のルールに従わなければならない。従って、通訳の言動はレフリーの判定の対象となる。
- 通訳はヘッドコーチやキャプテンが審判と話をする時に同行することができる。
- 通訳はチームベンチに座ったままにいるか、ベンチの後ろにいないなければならない。ヘッドコーチがレフリーと話をするためにタイムアウトを要求した場合のみ立ち上がることができる。
- 通訳がベンチに入ることが許されたのは、ヘッドコーチとレフリーが言語の壁のためにうまくコミュニケーションがとれない可能性があるためである。IKBFは下記の場合通訳のベンチ入りを認めない可能性がある。
 - ヘッドコーチが話す言語をヘッドレフリーが理解し、話し、互いに十分コミュニケーションがとれる。
 - 通訳がレフリーの話す言語をマスターしていない。

○2 ピリオド目以降のピリオド最初に行われるサイコロ・トス

・2017、2018日本版ルールブック第5条第1項b)

ピリオド間の休憩時間は2分。試合開始時のヒットチームは公式のサイコロをトスして決める。

↓

・改正 第5条第1項b)

ピリオド間の休憩時間は2分。第1ピリオド開始時のヒットチームは公式のサイコロをトスして決める。次のピリオドからは、前のピリオドで最も点数の低かったチームがピリオド開始時のヒットチームとなる。延長戦の場合は、公式のサイコロをトスしてヒットチームを決める。

○イリーガルキャッチ(ボールの開口部やカバーをつかむ)をトラッピングと同じ反則とする。
ルールを簡素化するために、イリーガルキャッチ(ボールの開口部やカバーをつかむ)をトラッピングの反則に含める。この変更により、イリーガルキャッチ(ボールの開口部やカバーをつかむ)の反則に対する従来のジェスチャーはなくなり、トラッピングのジェスチャーになる。

・2017、2018 日本版ルールブック

第7条第11項

トラッピング：試合中、一瞬でも、プレー中は1人のプレーヤーが両腕でボールを挟み込むことはできない。トラッピングとは、両腕でボールを抱え込んで完全に固定することを意味する。

第7条第13項

プレー中にボールの開口部やカバーをつかんだり、持ったりしてはならない。

↓

・改正 第7条第11項

トラッピング：試合中、一瞬でも、プレー中は1人のプレーヤーが両腕でボールを挟み込むことはできない。トラッピングとは、両腕でボールを抱え込んで完全に固定することを意味する。トラッピングはまた、ボールの開口部やカバーをつかむことも意味する。

○レフリーとスコアキーパーの役割と責任 変更

ヘッドレフリーの能力を最大限引き出すために、レフリーの負担を減らし、スコアキーパーの責任を増やす。また、チームがタイムアウトをとる時にスコアキーパーがヘッドレフリーを補助することを認めることも含む。

・2017、2018 日本版ルールブック

第4条第1項b)

ヘッドレフリーは、試合をうまく進行させるために必要な情報すべてをスコアシートに記入する責任がある。

第4条第4項

a) スコアキーパーは、スコアボードの担当者である。

b) スコアキーパーは、スコアキーパーのテーブルに座り、自分の役割を果たす(第2条第3項参照)。

↓

・改正 第4条第4項 c)およびd)追加

a) スコアキーパーは、スコアボードの担当者である。

b) スコアキーパーは、スコアキーパーのテーブルに座り、自分の役割を果たす(第2条第3項参照)。

c) スコアキーパーは、以下の情報をスコアシートに記入する責任がある。

プレーヤーやコーチの氏名、タイムアウト、各ピリオドの点数、試合結果、その他管理情報

そして、そのスコアシートをヘッドレフリーに渡し、承認をとらなければならない。

d) レフリーがタイムアウトを見逃した場合、スコアキーパーはレフリーにサインを送り気づかせようとしなければならない。